



松坂城跡の史跡整備④

登城路整備



1. はじめに

松坂城跡は、平成 23 年 2 月に国指定史跡に指定されました。松阪市は各種専門家の委員と、文化庁、三重県教育委員会、複数の市民代表のオブザーバーからなる松坂城跡整備検討委員会を立ち上げ、平成 28 年 3 月に「史跡松坂城跡整備基本計画」を策定しました。令和 4 年 3 月には、松坂城跡の保存と活用をバランスよく進めるために「史跡松坂城跡動線整備基本計画」を策定、その後も松坂城跡整備検討委員会の指導・助言の下で整備を進めています。

今回は、平成 29 年度から検討を始め、工事期間 3 年にわたった搦手側の登城路整備が完了したため、その概要をご紹介します。

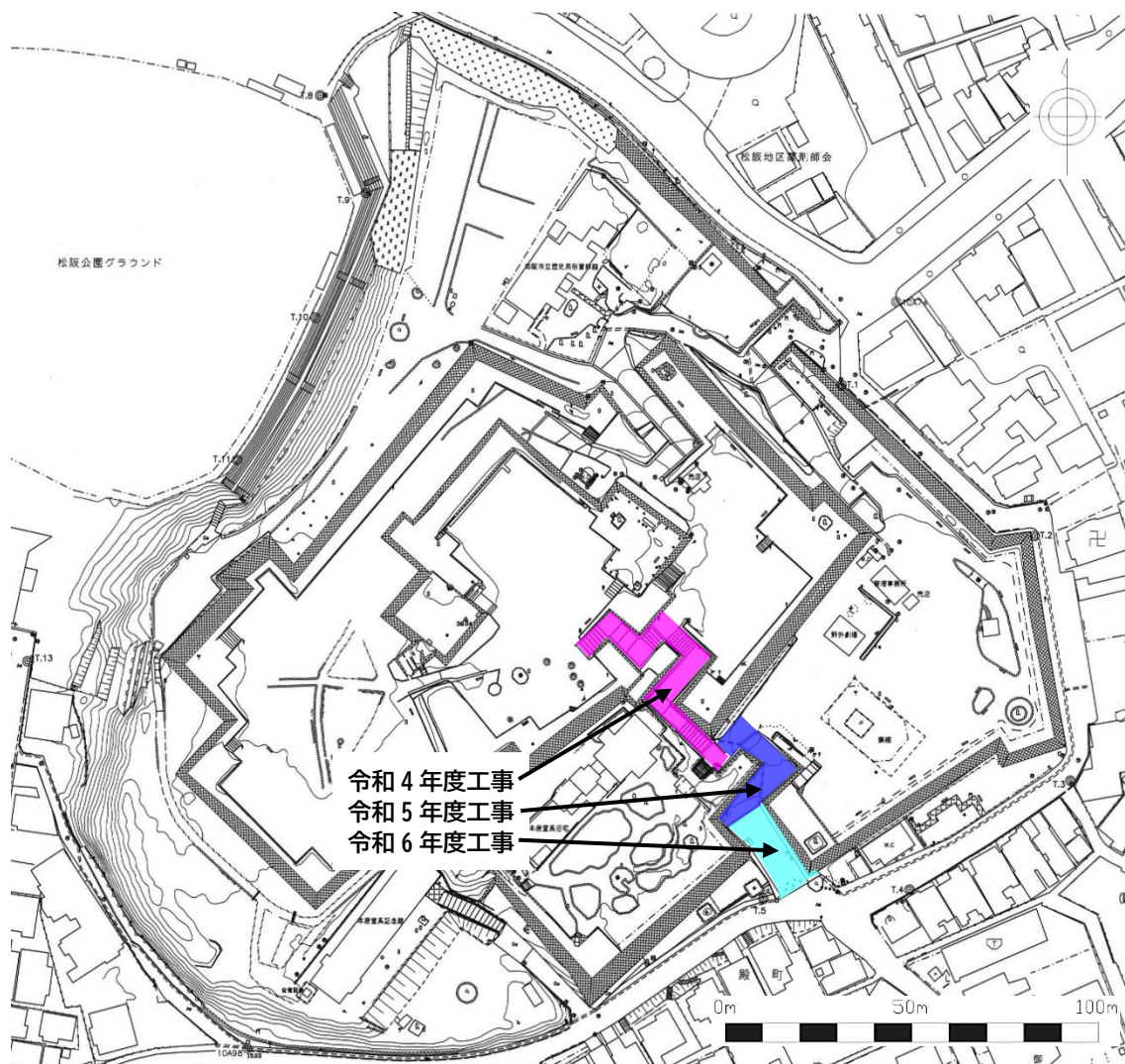
2. 史跡松坂城跡動線整備基本計画 ※

方針

「史跡松坂城跡が有する視認可能な価値や見どころ、各曲輪が俯瞰できる視点場を結ぶ見学コースを設定する。視点場は城の構造を理解してもらうだけではなく、城外への空間的な広がりを感じることができる箇所とする。また、車いす利用者の見学可能なコース設定や高齢者、障がい者への配慮など、できるだけ多くの方に訪れてもらえる整備内容とする。」＝「できるだけ多くの人々に開かれた整備を目指す。」

※ 登城路整備の基本的な考え方となるもので、市のHPでご覧いただくことができます。

3. 登城路整備の場所と工事年度



4. 登城路整備の内容

令和4年度

1. 設計条件

整備基本計画を基に、以下の考え方で設計を行いました。

- ・ズレが生じ傾いた石段を修復する。
- ・路面保護及び蹴上げの軽減を目的として土系舗装で仕上げる。
- ・安心・安全の確保のために、石段区間には補助手すりを上方に向かって左側に設置する。
- ・発掘調査の結果から掘削を伴う工事はできないことが判明しているため、補助手すりの基礎は置き型とする。
- ・発掘調査成果を反映した整備を検討する。
→中御門の位置や規模の把握はできず、遺構表示は断念した。
- ・現状で枯損している樹木や遺構に影響している樹木は伐採する。
- ・史跡地内に相応しい景観形成を図る。

2. 主な整備内容

①石段の据え直し

変形した石段の石を正しい位置や角度に調整しました。

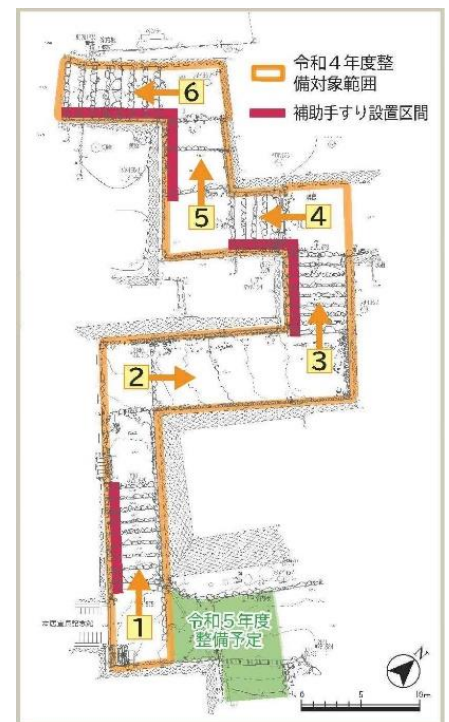
②舗装

遺構保護と蹴上げ高の回復のため土系舗装で仕上げました。強度はやや弱いですが、傾斜が比較的緩やかなので、風合いを重視して土系舗装を採用しました。

③補助手すり

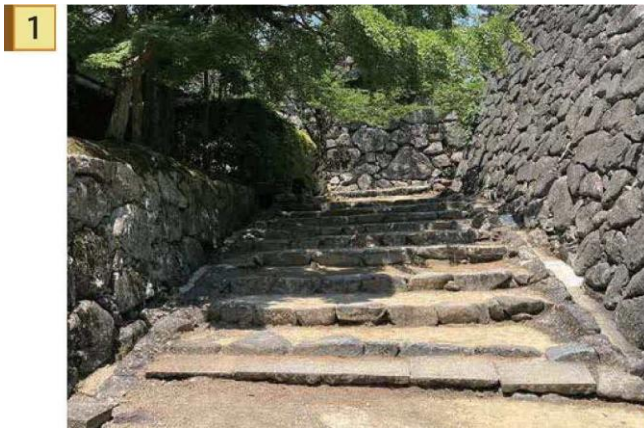
歴史的な構造物といった誤解を与えず、長寿命化、管理面から金属製を選択。石垣と比較して色候補を絞り込み、帯熱しにくいシルバー系を選択しました。

基礎はコンクリートの自重で支える工法としましたが、今後の技術の進歩により、補助手すりが不要となった時には元に戻せるようにシートを敷き込んであります。



令和4年度整備範囲と写真位置

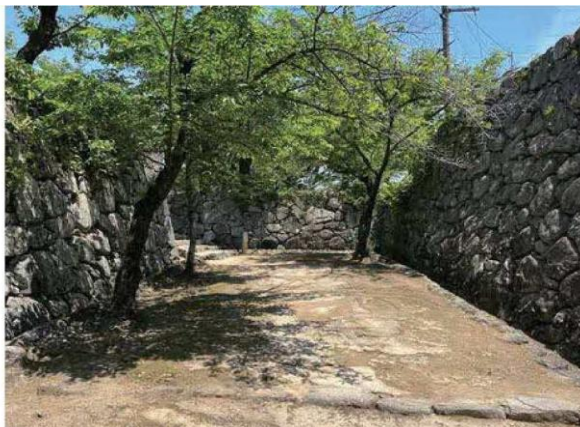
整備前



整備後



2



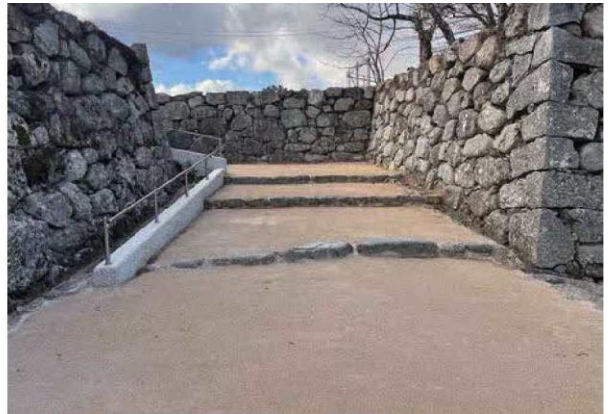
3



4



5



6



令和5・6年度

1. 設計条件

整備基本計画を基に、以下の考え方で設計を行いました。

- ・発掘調査の成果を基に遺構（裏門など）の顕在化を図る。
- ・雨水排水施設の改修と御城番長屋方向への雨水の流下を軽減するための水路を設ける。
- ・緊急車両（消防自動車等）が通行可能かつ傾斜路の保護ができる舗装で仕上げる。
- ・枯損している樹木や遺構に影響する樹木を除き、景観木については、可能な限り残す。
- ・史跡地内に相応しい景観形成を図る。

2. 主な整備内容

①遺構表示

発掘調査成果からは裏門全体の規模は検出されなかったため、古写真から確認できる前面部分を擬石ブロックにて表示整備を行いました。また番所跡については発掘調査の成果から平面的に表示整備を行いました。

②サイン

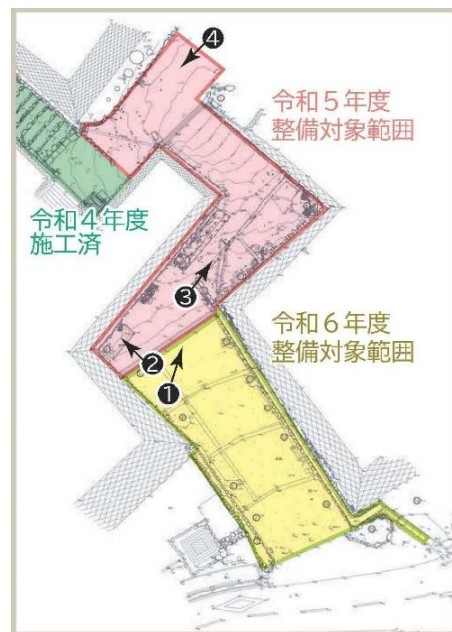
門跡近くに解説板を設置しました。（8ページ参照）

③雨水排水施設

路面の舗装に伴い既存の横断溝を改修しました。また御城番長屋方向への雨水流下を防ぐために横断溝を2本新設し、いずれの水路も幅が細めのグレーチング蓋を掛けました。舗装の色調を考慮し濃い色よりもシルバーが良いとの議論から一般的なものを採用しました。

④舗装

車輦の通行および傾斜路の保護を念頭に周辺景観に馴染む透水性の景観色アスファルト舗装にて仕上げました。存置する樹木の周囲は舗装止めとして見切り材で囲みました。各所の色彩は、経年変化により徐々に落ちついていきます。



令和5年度整備範囲と写真位置

①

整備前



整備後



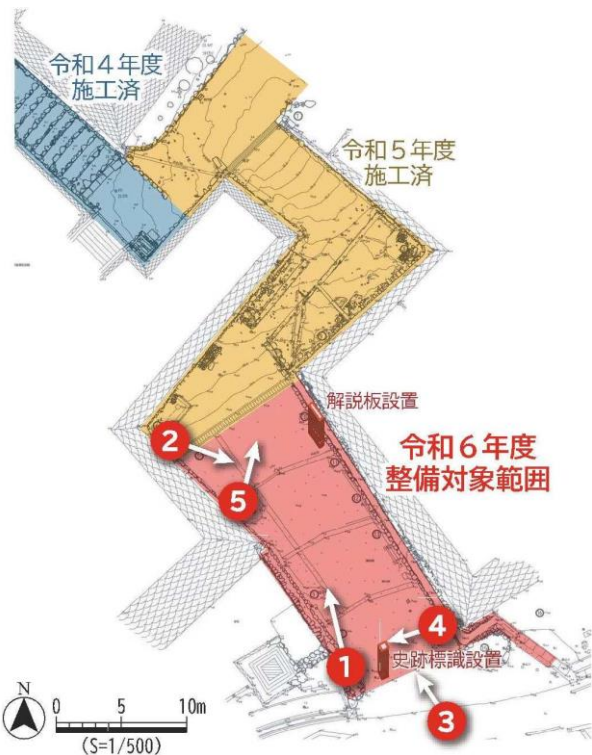
②



③

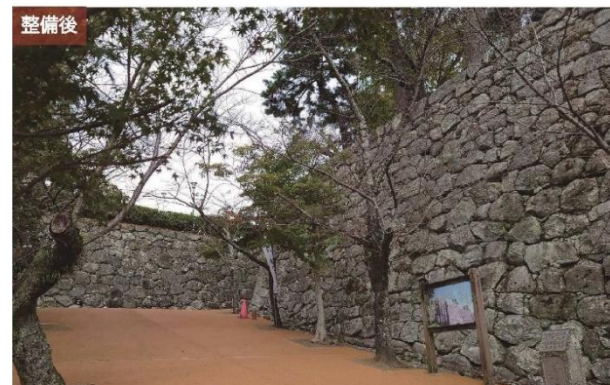


④



令和6年度整備範囲と写真位置

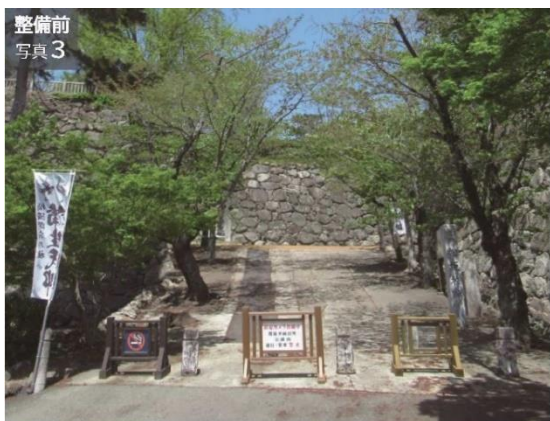
①



2



3



4



5



5. 設置した解説板

現在、QRコードで英語版の解説がみられるように準備をしています。



松坂城の搦手筋（裏口）の構造

城郭内の登城路は、何度も屈曲させ、門と組み合わせることで防御力を高めています。このような構造をもった空間を枡形と呼びます。

松坂城の搦手筋の登城路は、複数の枡形が連続する形で造られており、強固なものとなっています（図1）。

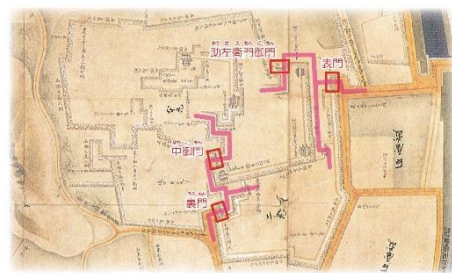


図1：「伊勢国松坂古城之図」 織田公文書館蔵

松坂城の裏門

裏門は、1600年代中頃の記録から、本来は本瓦葺二階建の櫓門であったと考えられます（図2）。

櫓門は、城郭の防御力を高めるために、城門の上に櫓を設けた門の名称です。櫓部分には、窓や狭間が作られ、外部の監視や、攻撃をすることができました。

右の写真（図3）は、明治5年（1872）に撮影された裏門で、当初の姿から葺葺屋根に変わっています。江戸時代の大風で二階部分が破損したため、葺葺平屋建に改修されたという記録が残っています。



図3：明治5年の裏門 東京国立博物館蔵

番所

右図（図4）は、明治初期に作成されたもので、裏門の背後に、城を警備する人が待機するための番所が建てられていたことがわかります。令和5年（2023）に行った発掘調査でも番所の痕跡である礎石（柱を支える石）が見つかっています（図5）。



図5：発掘調査で確認された番所の痕跡

6. 普及公開

登城路整備工事に際しては、どのような考えや手法で工事を行うのかお伝えするため、現地説明会や講演会等を実施し、皆さんからたくさんのご意見をいただきながら進めてきました。今後も同様の機会を積極的に設け、広く開かれた松坂城跡を目指して整備を進めていきます。



松坂城跡の史跡整備④ 登城路整備
松阪市産業文化部 文化課 令和6年12月